



令和2年1月27日

No. 56

文責 校長 飯久保一男

食べ物への感謝 ①

1月24日から1月30日は、全国学校給食週間です



ワンガリ・マータイさんは、環境分野で初のノーベル平和賞を受賞したケニア人女性です。マータイさんが、日本に来たときに感銘を受けた言葉が「もったいない」という日本語でした。

環境3R (Reduce リデュース ゴミ削減・Reuse リユース 再利用・Recycle リサイクル 再資源化)
+ Respect リスペクト 尊敬 = 4R 「もったいない」

マータイさんは「もったいない」という言葉が環境活動の3Rをたった一言で表せるだけでなく、かけがえのない地球資源に対するリスペクトが込められている言葉として、この美しい日本語を環境を守る世界共通語「MOTTAINAI」として広めることを提唱しました。MOTTAINAI キャンペーンは、地球の環境に負担をかけないライフスタイルを広め、持続可能な循環型社会を目指す世界的な活動として展開されています。



「もったいない」の母国の日本に生きる子どもたちに、食べ物のもとになる動物や植物の命をもらうことで人間が活着していることを理解し、感謝して食べてほしいと思います。また、食べ物が、私たちの口に入るまでに関わるたくさんの人々やその努力にも感謝の気持ちをもってほしいと思います。そのためには…。

その1 「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをする。

- 食事のときに「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつの習慣を身につけさせましょう。
- 「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつの意味を教えましょう。
 - ・「いただきます」…私たちは、食べ物（動物や植物）の命をもらって生きています。「いただきます」という言葉には、食べ物の命をいただくという意味が込められています。
 - ・「ごちそうさま」…漢字で書くと「御馳走様」という字になります。「馳走」は走り回るという意味です。「ごちそうさま」という言葉には、食事ができるように駆け回って準備をしてくださってありがとうございますという感謝の気持ちが含まれています。

その2 食べ物の命の大切さを知る。

- 食べ物の命をいただいていることを知り、多くの人のおかげで食べられることを教えましょう。
- 嫌いなものでも残さずに食べるように努め、食べ物を無駄にしない習慣をつけ、「もったいない」という気持ちをもたせましょう。

その3 栽培や収穫を経験する。

- 家庭でも植物などの栽培、収穫を体験する場をつくり、その大変さや収穫の喜び、命の尊さを伝えてもらえたらと思います。
- 自然の恩恵や食に関わる人々の様々な活動を知り、食への感謝の気持ちを深めてほしいと思います。

(浜田市子育て情報サイトより引用)

新聞に、あるお母さんからの「悲しいパンの思い出」という次のような投書が載っていました。

「お母さん、早く早く、遅刻するよ」と毎朝、子どもたちの声にせきたてられるように、こうばしいパンを食卓に運ぶが、そのたびに私の胸には何ともいえない悲しさが込み上げる。

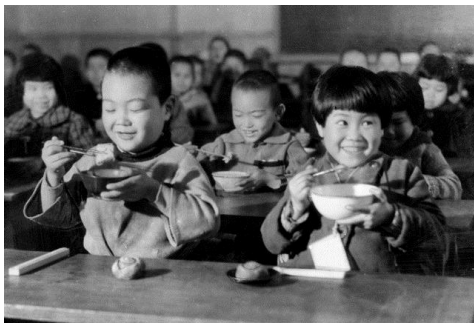
あれは小学校1年生のころだった。父は病気で働けなかった。母が工事現場の石運びの仕事をして、中3の姉を頭に、私の3つ下の弟まで5人の子どもを食べさせてくれていた当時、わが家はどん底だった。私たちは毎日、朝食ぬきで登校し、お弁当の時間になると、友達が食べている間は教室を出て校庭のすみや図書室で、食事の終わるのを待っている欠食児童だった。

ある日、私は友達の机の中に、友達の残したパンを見つけた。お腹がすいてお腹がすいて、がまんができず、そのパンを盗んでしまった。そして、だれもいない校舎の裏で、みじめさと悲しさで胸が張りさけそうになり、私は泣きながらそのパンをかじった。

パンがなくなったと問題になったその日の放課後、担任のA先生はそっと私を呼ぶと、何も言わずにやさしい笑顔を浮かべて、パンをいっぱい詰めた袋を、私の手にぎゅっと渡してくださった。あのときの恥ずかしさと悲しさ…。先生のやさしさのなかに、幼いながらも『どんなことがあっても人の物を盗んではいけないのよ』と諭してくださった気持ちを忘れることはできない。



あれ以来、パンは私の大好物であり、また悲しい思い出の一つになっている。



給食は、戦前も行われているところもありましたが、戦争により中断され、戦後、欠食児童をなくすために、全ての学校で開始されました。当時は食べ物に困る家庭も多く、つらいこともあったと思いますが、「一杯のかけそば」を家族で分けて食べたとか、パンを半分ずつ食べたとか、相手の痛みを知る思いやりも育っていました。

私の父は、ご飯を残すことに厳しい人でした。茶碗に米が一粒でも残っていると「米一粒からどれだけの米ができると思っているんだ」と叱られたことを覚えています。現在の日本は「飽食の時代」ともいわれ、私が子どものころよりも、さらに物が豊富にあり、好きな物を好きなだけ食べられる時代です。こういう時代だからこそ、食べ物への感謝や理解が必要なのです。そういう中で、やさしさや思いやりの心を育てなければならない時代ではないかと思うのです。

いただきますの日 「5つの感謝」



「自然」に
いただきます。



「いのち」に
いただきます。



「労働」に
いただきます。



「知恵」に
いただきます。



「周りの人」に
いただきます。

毎月11日と、11月11日は「いただきますの日」だそうです。

次号は「食べ物への感謝②」です。